「大阪湾の環境の保全・再生・創出に関するアンケート」リサーチプラン

１．調査の目的

府では、平成28年10月に「瀬戸内海の環境の保全に関する大阪府計画」の内容を変更し、「多様な生物を育む場の確保」、「健全な物質循環による良好な水環境の保全」、「都市活動や暮らしに潤いと安心を与える、大阪の都市としての魅力向上」といった多面的価値・機能が最大限に発揮された「豊かな大阪湾」の実現を目指して取組みを進めていくこととしている。

本調査では、府民の大阪湾の環境に対する意識や大阪湾の利用状況、大阪湾の環境保全等に対するニーズ等を明らかにし、当該計画に基づく新たな取組みの企画立案等を行うための参考とする。

２．調査方法

　　調査対象：国勢調査結果（平成27年）に基づく性・年代・居住地（4地域）の割合で割り付けた18歳以上の大阪府民1,000サンプル

３．調査仮説

仮説１:　大阪湾の来訪経験のある人は、ない人に比べ、大阪湾に対して愛着や魅力を感じる人が多く、将来の魅力の向上に期待する人も多い。

また、大阪湾の来訪経験のある人のうち、湾南部（貝塚以南）来訪経験と湾奥部来訪経験では、大阪湾に対して愛着や魅力を感じる人や、将来の魅力の向上に期待する人に差がある。

仮説２： 大阪湾に対するイメージで「水がきれい」や「景観がよい」という項目に対し、子どもの時に【肯定層（そう思う、どちらかというとそう思う）】であった割合は、若い世代の方が高齢の世代より高く、現在のイメージにおいても、【肯定層】の割合は、若い世代の方が高い。

また、子どもの時に【否定層（あまり思わない、全く思わない）】で、現在も変わらず【否定層】である人と、現在は【肯定層】に変わった人を比べた場合、大阪湾の来訪経験がある人とない人で差がある。また、若い世代と高齢の世代においても差がある。

仮説３：　大阪湾の水質改善等のためのボランティア活動に参加経験や関心のある人は、ない人に比べ、大阪湾の来訪経験のある人、愛着や魅力を感じる人、将来の魅力向上に期待する人がともに多い。

４．質問項目

ＳＣ質問…４問

ＳＣ１　性別

ＳＣ２　年齢

ＳＣ３　都道府県

ＳＣ４　住所地（市町村）（SA）

本質問…１４問

【全員】

Ｑ１　　大阪湾及び大阪湾沿岸の来訪経験（過去３年）（SA）

【来訪経験あり】

Ｑ２-1　　来訪目的（ＭＡ）

Ｑ２-2　　来訪目的（ＳＡ）頻度の最も高いもの

Ｑ３　　【頻度の最も高いもの】来訪場所（市区町）（ＳＡ）

Ｑ４　　【頻度の最も高いもの】来訪頻度（ＳＡ）

【全員】

Ｑ５　　大阪湾に対する愛着や魅力（ＳＡ）

Ｑ６　　大阪湾に対する各項目のイメージ（表組、ＳＡ）

Ｑ７　　大阪湾に対する子どもの頃の各項目のイメージ（表組、ＳＡ）

Ｑ８　　大阪湾以外で過去３年内の海の来訪経験の有無（ＳＡ）

　Ｑ９　【来訪経験あり】来訪目的（ＭＡ）

　Ｑ１０　大阪湾の将来の魅力向上に必要なこと（上位３つ、順位付け）

Ｑ１１　将来、大阪湾の魅力向上への期待の有無（ＳＡ）

Ｑ１２　大阪湾の水質改善等のため、ボランティア活動等への参加・関心

　Ｑ１３　大阪湾及び大阪湾沿岸で魅力的な（お気に入りの）場所・景観の有無（ＳＡ）

Ｑ１４　【あり】具体的な場所（FA）

５．分析の方法

①仮説１の検証

・「来訪経験（Q１）」別に、

「大阪湾への愛着や魅力（Q５）」、「将来の魅力向上の期待（Ｑ１１）」を集計

・「来訪場所（Ｑ３）【湾奥部・湾南部】」別に、

「大阪湾への愛着や魅力（Q５）」、「将来の魅力向上の期待（Ｑ１１）」を集計

　②仮説２の検証

・「年齢層（若者層、中間層、高齢層）」別に、

『子どもの頃のイメージ（Ｑ７）「水がきれい」「景観がよい」の否定層』、

『現在のイメージ（Ｑ６）「水がきれい」「景観がよい」の否定層』をそれぞれ集計

・また、「来訪経験（Q１）」別及び、「「年齢層（若者層、中間層、高齢層）」別に、

『子どもの頃のイメージ（Ｑ７）「水がきれい」「景観がよい」の否定層』で且つ、

『現在のイメージ（Ｑ６）「水がきれい」「景観がよい」の肯定層』を集計

　同様に『子どもの頃のイメージ（Ｑ７）「水がきれい」「景観がよい」の否定層』で且つ、

『現在のイメージ（Ｑ６）「水がきれい」「景観がよい」の否定層』を集計

③仮説３の検証

・「ボランティア参加・関心（Q１２）」別に、

「来訪経験（Q１）」、「大阪湾への愛着や魅力（Q５）」、「将来の魅力向上の期待（Ｑ１１）」を集計